

第23回紀の川市子ども・子育て会議  
議事概要

日 時	令和7年12月3日（水） 10:00～11:25		
場 所	紀の川市役所 2階 市民協働スペース		
出席者	(順不同敬称略) <b>【委員】</b> 金川委員（会長）、貴多橋委員（副会長）、藤田委員、阪本委員、 坂口（敏）委員、清原委員、寺田委員、植田委員、 津田委員、西田委員、真砂委員、坂口（広）委員、長田委員 <b>【事務局】</b> 山田、中嶋、堀口、浅田、山本、渡辺、瀧本、山中、南、坂口		
欠席者	4人	傍聴者	なし
議 題	(1) 紀の川市子育て支援施策の状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育・保育事業の施策状況【資料A】</li> <li>● 地域子ども・子育て支援事業【資料B】</li> </ul> (2) 公立保育所の利用定員変更について (3) 乳児等のための支援給付の量の見込みと確保方策等の変更について		
資 料	資料 第23回紀の川市子ども・子育て会議資料		

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員紹介

4. 会長・副会長選出

会長は金川委員、副会長は貴多橋委員。全員一致による承認。

5. 議事

<議題(1)紀の川市子育て支援施策の状況のうち、教育・保育事業の施策状況について、事務局より説明>

金川会長 議題の1ですが、資料を見ながら、説明いただいた。

丁寧の説明をいただいたが、内容が多いので、わからなかったところ等あ

れば、ぜひ委員から質問等お願いしたい。

全体として見るならば保育のところはかなり丁寧に説明をされていて、定員は一応確保されていて、待機児童はないが、第1希望をかなえたとすると若干、待ちが出てしまう。それは、致し方ないと思う。

5ページの学童保育について、民間委託で一体化して、かなり効率的なものができるようになった。この待機が出ているのは、低学年か高学年か、その辺の状況も教えていただきたい。

事務局 基本的には4年生以上の児童になるが、年度途中だと既に定員いっぱい  
で低学年の児童でも待機ということもある。この数字の内訳については、  
1年生1人、4年生7人、5年生1人の合計9人。

低学年から優先的に入所としているが、年度途中であれば、なかなか難しいという状況である。

金川会長 都市部の学童保育では、かなり詰め込まれているというような話もマス  
コミ報道等で聞くが、こちらでは10カ所でしっかり運営していて、年度  
途中からの入所希望では待機も出ているが、通常は低学年から優先してく  
れている。

7ページの養育支援訪問事業について、実績数が増えていて、しっかり  
フォローされていると感じた。児童虐待等の養育に課題がある家庭へのフ  
ォローは丁寧にしたほうがいいと思う。支援件数だけ見ると、専門職の負  
担も心配だが、しっかりとやってくれているのがこの表から窺える。ちな  
みに令和6年度以降の件数の中にヘルパーによる家事援助は入っている  
のか。

事務局 入っていない。令和6年度から、家事・育児支援は子育て世帯訪問支援  
事業において実施することとしているが、実績はない。というのも、障害  
等の他制度のサービスを使っているのが、子育て世帯訪問支援事業とし  
ては使っていない状況である。

## <議題(2) 公立保育所の利用定員変更について、事務局より説明>

金川会長 2カ所の保育所について、利用定員を実質の数に合わせるということで、  
変更しても影響がないという説明であった。

お気づきの点等なければ、次に議案(3) 乳児等のための支援給付の量  
の見込みと確保方策等の変更について事務局より説明願いたい。

## <議題(3) 乳児等のための支援給付の量の見込みと確保方策等の変更につい て、事務局より説明>

金川会長 要するに、資料 10 ページの説明が根拠となっている。令和 8 年度就学前児童数が 0 歳 280 人、1 歳 326 人、2 歳が 332 人。その中で対象になってくる児童が 0 歳 117 人、1 歳 162 人、2 歳 97 人であり、これはいずれも保育所や幼稚園などの施設を利用してない児童である。よってこの利用率から、利用者数が 0 歳児 30 人、1 歳児 49 人、2 歳児 34 人となる。1 ヶ月 10 時間なので、0 歳児 300 時間、1 歳児 490 時間、2 歳児 340 時間が月に必要な受け入れ時間と算定したということ。そして必要定員数は、これを換算したという理解で大丈夫か。

事務局 保育所の基本的な 1 ヶ月の開設時間を「8 時間×22 日＝176 時間」とし、必要受入時間数をその 176 時間で割った数字が、1 ヶ月の定員ということで、この必要定員数となっている。

金川会長 月に 176 時間保育所が開いていて、それを必要時間数で計算すると、必要定員数が 2 人とか 3 人になるということ。この道筋を説明しておかないと、当初計画 77 ページの 28 人から、なぜこの数字になるのかと思う。計算は妥当であろうと思うし、実質的な計上となっている。しっかり受け入れていっていただければと思う。

では、委員の皆さんに、紀の川市の子育てのことや今の議題の中でのことなど、どんなことでも良いので意見をいただきたい。

真砂委員 昨年度、非常にしっかりした計画を策定したが、希望としては、計画が現実になってほしいし、また計画が定期的にどの程度進んでいるか振り返りもしてもらいたい。

子育てガイドブックもコンパクトに上手くまとめられているが、やはり子育て世代はスマートフォンやアプリをよく使うので、ネット上にータルサイトであるとか、アプリみたいなものがあれば良いと思う。

事務局 子育てガイドブックについては、ガイドブックの裏表紙に載っている QR コードを読み取ると、スマートフォンでも同じ内容が確認できる状態にはなっている。アプリについてはまだ導入できていない。

坂口<sup>広</sup>委員 乳児家庭全戸訪問されているということで、子育てに手厚い紀の川市というのがうれしいと感じた。苦勞してくれているというのが実感で、これからもよろしくお願ひしたい。

津田委員 私も今 3 人の子育てをしていて、仕事から帰ってからも親の協力を得て

過ごしている。子育てをするのに時間や心の余裕のない状態で毎日過ごしているが、3歳の子どもは保育所がとても楽しいと毎日言って帰ってきてくれる。それは保育所に子どもをあずけている親としてはすごくありがたい、いろいろな人に支えられて、子育てできていると感じる。

紀の川市で何か気になることというと、小さい頃は保育所に預ければいいが、子どもが大きくなってくると、習い事に行くことが大変である。地理的要因で子どもが自転車で行くのは無理で、どうしても親が送り迎えしないといけなくて、今も家族みんなで分担してやっている。

子どもたちがすくすく大きくなってきて、紀の川市で子育てさせてもらえてありがたいと感じている。

金川会長 今日、松本委員が欠席だが、松本委員がいれば多分話してくれたと思うが、和歌山地域のファミリーサポートセンターでは、塾等習い事への送り迎えのニーズが高いらしい。ファミサポというと皆さんのイメージだと、会員組織で、小さい子を預かるというイメージだと思うが、実は和歌山では地域的な問題があるので、小学生高学年の子どもが習い事に行きたいとなった時に、ファミサポで送迎を担ってくれている。

西田委員 紀の川市に引っ越しをしてきたときに、子育てガイドブックにいろいろ載っていて助かった。ただ、子育て支援センターで保護者同士で話をしても、情報感度の高い人だといろいろ利用しているが、自分から問い合わせないといけないとなると、ハードルが高かったり、そもそも育児の中で時間や余裕がなかったりして、情報をキャッチアップできる人とできない人の差があるのかなとは感じる。

あと素朴な疑問としては、育休中の人でもこども園なら3歳でも入所できるが、紀の川市では育休中の方は保育所に入所できないと聞いた。

金川会長 育休中の入所について、どうなっているか。

事務局 既に保育所に通われている家庭で、就労していた母が育休になる場合はほとんどそのまま継続して通うことができるが、育休という理由での新規入所は基本的に受け入れられない。

さきほど言われていたこども園であれば、就労を理由に2号（保育）で通っていたが、仕事を辞めたがそのまま通いたいという場合1号（教育）に変更できる。

紀の川市には公立保育所が7ヵ所あるが、今後に向け再編を考えてい

る状況である。確定ではないが、様々な状況を考えて認定こども園であるとか、そういう方向にシフトしていくことも、今後視野に入れていきたいとは考えている。

長田委員 さきほど話にもあったが、自分からつかみに行く人にはどんどんいろんな情報が入る。でも、本当に伝えたい人に伝わっていかないというのは、教育分野でも同じだと考えている。  
この場で得た知識や情報を教育分野でも生かしていけたらと感じている。

植田委員 紀の川市の保育園について今回の会議で知ることができた。  
私の場合、児童発達支援センターの保護者さんの話が元になることが多いが、早い段階で保育園に入れておかないと入りにくい状況にあるという話を聞いていたので、こんなに定員の確保がされていることが分かり、今後お母さん方と相談しながらやっていきたいと思う。  
また、乳児期1歳児とかで早くに入る子どもさんが本当に増えている。その中で、保育所に入りながら、療育が必要になってくる子どもさんも当然出てくる。  
今年度も、途中から紀の川市の保育園から、一部途中併用しながら来る子どもを12月から受け入れたところだが、やはり、もっと本当に必要な方もいると思うので、保育園に通いながらもスムーズに、療育というところに繋がっていくようにできたら、その方の地域の保育園で就学を見据えていくと地域の保育園と併用しながら、利用できるっていうことが一番重要なインクルーシブっていう点でも大事なことだと思うが、問題は、今後、保育士さんの確保っていうのもとても大変な問題ではあるかと思う。

今日は本当にいろんな現状を知ることができて良かった。

寺田委員 私は幼稚園で年長児の担任をしているが、先日参加した和歌山県の研修で保幼小連携の取り組みを聞かれたときに、紀の川市は、年長の担任の先生と小学校1年生の担任の先生で集まって会議をしたり、授業を見に行かせてもらったり、逆に保育を見に来てもらったりしていると話した。市が計画してやってくれるので必ず実施されているが、周辺市等では各担当が忙しくてなかなか日程調整できないとのことだった。紀の川市では行政の方が保育所・幼稚園・小学校の間に入って段取り等してくれることを羨ましがられた。本当にいつもありがたいと思っている。  
また、引き続きこの会議の一員として勉強していきたい。

金川会長　それは素晴らしい。紀の川市は当たり前に行っているかもしれないが、実はそうではなくて、周りの市町村ではできてないということ。

清原委員　会議資料にもあるように、うちの保育園も数字上は定員に余裕はあるが、実際は保育士不足で、子どもたちを受け入れることができない。

特に小さい子どもをもっと受け入れないといけないというのは分かっているが、そもそも保育士が足りていない。そこに出産育児休暇を取得する保育士が重なる。また新卒や実習の人材も本当に無い。大学や専門学校にも募集をかけるが、大阪に出た方が賃金が良いためなかなか確保が難しい。今は、保育免許を取ろうとしている人材を補助として受け入れている。

昨今は保育士による虐待など報道されることもあり、少しマイナスなイメージを持たれている方が多くなっている気がするので、もっと良くできたらと思う。

坂口<sup>敏</sup>委員　今は昔と比べて子どもの人数がかなり減ってきているということ、そして気になる子どもも保育所として増えてきているということ、保育士の人数の確保も重要となってくるということが分かった。

そして子どもの発達状況や生活環境はそれぞれ異なるが、できるだけ保護者と話し合っ、保護者や子どもの気持ちに寄り添っていききたいなと思う。

みんなが生活しやすく笑顔で過ごせる紀の川市になれば良いと感じた。今回参加していろいろ勉強になり良かった。

阪本委員　この4月から学童保育を運営するにあたり、紀の川市内10ヵ所のどの施設でも同じサービスが受けられるように取り組んでいる。保護者さんにアンケートを取ったりして欲しいニーズをキャッチするようにしているが、このような会に参加させてもらい、紀の川市に住んでいる方がどのような学童の運営を望んでいるかを知る機会となって、とてもありがたいと思った。

藤田委員　いつもこの会に参加しているが、人と人の触れ合う場所から学ぶことが多い。

さきほど寺田委員が言ったように、約18年前に、市から幼小連携についての話があり始まった。当初は大変であったが、市が一生懸命動いてく

れたので、やって良かったと思っている。

私も保育士や幼稚園教員の確保が難しいと感じている。保育士や教員が育児休暇を取った場合1年後に戻ってきてほしいが、年度の切り替わりに合わせて出産しているわけではないので、年度途中で1歳児をあずかってくれるところが少なく復帰できない。そのあたりを改善してくれれば、環境も整うのではないかと思う。

もう1点、市が活性化するために、出生率を高くするために、子育て環境を整えてほしい。

市は一生懸命やってくれているので、これからもお願いしたい。

貴多橋副会長 委員の皆さんから意見いただき、ありがたい。

行政の立場での意見となり申し訳ないが、合併して20年が経過した。その間に国からの優遇措置がどんどんなくなっていき、今後、財政的にも厳しい状況が続くだろうと推測されるが、そんな中でも、紀の川市は、子育て施策を市の主要施策と位置付けているので、今後も充実に努めていきたいと思うので、皆さんの協力をよろしくお願いしたい。

金川会長 委員の皆さんの生活における実感や、子育て現場から出た声というのはすごく大事である。課題のすべてを100%解決していくのは難しいかもしれないが、議論したり課題として確認したりすることは、すごく大事なことだと思っている。

他に意見等があればお願いしたい。無いようであれば、6、その他を事務局から報告いただく。

## 6. その他

紀の川市子ども・子育て会議委員の概要について事務局説明

委員の任期、会議開催回数、会議出席にかかる委員報酬について説明する。

## 7. 閉会